

大学図書館の現状と課題

伊藤 祐三

大阪大学附属図書館事務部長

はじめに

本年四月、国立大学では法人化というエポックがあった。大学図書館の本質は変わらないが、経営という観点、「利用者」に益するという観点が、より強く求められるようになった。また国公立大学の図書館が、徐々に同じ土俵で活動できるようになるだろう。すなわち、相互に制約の枠は低くなった。その分お互いに才覚の余地が増えた。大学図書館では、図書館員としての能力が、事務処理能力にまわって、より強く求められるようになった。

1. 大学図書館の現状

・設置

大学設置基準、国立大学法人法、各大学の組織規程

・役割

学習・教育支援、研究支援、社会貢献、国際貢献

・実情

図書館実態調査、国大図協のアンケート

管理運営状況、蔵書構築状況、利用状況

・経営

目標と計画と実行

資源配分と効果

組織、経費、職員

図書館の市場化

外注、請負、学術情報の売買頒布

・国の施策

学術情報システムと大学図書館

大学改革と大学図書館

学術コミュニケーションと大学図書館

2. 大学図書館の課題

1) サービス

・電子資料と文献資料 - 変化する蔵書構築

電子資料の拡大と整備

学術研究コンテンツと新たなコレクションの定義

文献資料の整備 - 学術雑誌、教養図書

- ・電子図書館的機能の強化
 - 大学ポータル構築
 - 機関レポジトリ構築
- ・図書館間の相互協力
 - 相互協力の基盤 - 相互運用性の拡大
 - NII、標準化
 - サービス面と管理運営面
 - ILL、外雑センター、情報資源共有、コンソーシアム、協力組織
- ・学習・教養教育機能への参画
 - 学習環境、学習資料、共通教育との連携
- ・「利用者」のニーズ調査
 - モニター制、アンケート、「利用者」ボランティア
- ・著作権対応
 - 権利者との調和、契約
- ・学術コミュニケーションへの関与
 - ・大学の研究成果の保存と発信
 - ・学術コミュニケーション活動の支援
 - NII、SPARC、標準化

2) 管理運営

- ・経営の改善
 - 組織
 - 資源のコーディネート (人、物、金、情報)
 - 全学的な図書館組織、他の情報サービス部門との再編統合
 - 経費
 - 事業費、運営費、外部資金
 - 職員
 - 図書館業務、事務的業務、役務的業務
- ・評価
 - 達成度測定
 - 目標の設定、計画の設定、年次計画の設定
 - ランガナタンの図書館の五法則
 - 評価指標と評価
 - 定量的指標、定性的指標
 - 自己評価、「利用者」評価、第三者評価
 - 説明責任
 - ミッションとビジョンの開示
 - 経営情報の開示、達成度情報の開示

- ・職員のスキルアップ

 - 専門性を持った人材の養成

 - 自己研鑽と専門職研修

- ・施設マネジメント

 - スペース管理、スペースの演出、デポジトリーの相互運用

 - 保存基準、アメニティ、

3. 新たな目標に向かって - 「図書館は成長する有機体である」

 - ミッションとビジョンの共有

 - 図書館職員間、「利用者」と図書館間、図書館と大学経営者

 - 既存のサービス品目の自動化

 - 効率化・合理化の追求

 - 新しいサービス品目の開発

 - 「利用者」ニーズの把握、具体化の方策 - 企画立案機能、研究開発機能

 - 技術の活用 IC、携帯端末、

 - 経営方針の柔軟性

 - 組織・資源の柔軟な配分

 - 新しい分野の開拓

 - 学習・教育・情報リテラシー教育支援

 - サービスの改革

 - 不特定者へのサービスから特定者へのサービスへ - 「利用者」を明確にしたサービスの組み立て